

学校法人 聖ヶ丘学園 育和幼稚園

2024年度（令和6年）自己評価結果公表シート

育和幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2024年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：常勤教職員15名
- (2) 実施日：2024年7月20日～2024年1月31日（1学期・2学期 各1回実施）
- (3) 実施方法：職員全体会議において、常勤職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的： 本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針： 1. 遊びを中心とした保育
2. 子ども一人ひとりの善さを伸ばす保育
3. 主体的で対話的で深い学びにつながる保育
上記を方針として、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育目標： ○遊びを生み出し、面白がり夢中になって自らを創りだすことができる子ども
○自分のことを大切にし、人の善さや思いやりに気づく子ども
○基本的生活習慣と態度を身に付け、自ら考え、自信をもって行動しようとする子ども

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

園内研修において、2024年度の事業計画及び基本方針を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施する。自己評価については、保育・教育の視点（教育課程の編成と実務）を中心に日々の保育について具体的に保育者自身が保育の振り返りができるように自己点検を行う。また、昨年度より園全体の運営・組織については追加し、全職員が幼稚園の運営にかかわっていくための相互理解・共通認識の深まりを目指してきた。保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していくためのものとした。

3. 評価項目の検証結果及び改善策

項目	カテゴリー	項目	カテゴリー
1	保育・教育目標について（5問）	7	情報について（3問）
2	指導について（5問）	8	指導について（4問）
3	教育週数・教育時間（2問）	9	出納経理（1問）
4	行事について（2問）	10	開かれた幼稚園づくり（18問）
5	経営・組織（17問）	11	保育の在り方、幼児への対応（28問）
6	研究・研修（8問）	12	保育者としての資質や能力・良識・適性（28問）
	評価項目・取り組み 状況評価項目	評価	検証結果及び改善策
1	<u>保育・教育目標について</u>	B	学年毎の教育目標は、前年度の子どもの姿や発達を踏まえ考えられているが、地域の特色や保護者の願いまでは反映されていない。今後、保護者の意見を伺う機会を設け、地域交流をふまえた視点を取り入れていく。また、毎月の保育目標については、学年ごとに立案しているため全職員で共有はしていないが、紙面（アプリ）を通して各学年の目標やねらいについて共通認識はできるようになっている。全職員で検討し、共通「理解」前の対話ができている。前年度の反省を生かし全職員で共通理解を図る機会を設ける必要がある。
2	<u>指導について</u>	C	指導計画は幼児の実態に即して作成するように心がけている。保育実践における環境の構成は、毎年課題になっているが、なかなか実行できていない。常に工夫ができているとはいえ、後回しになりがちとなり、クラスの設置や廃材教材がいつも同じになってしまう。預かり保育では、研修で他園の環境構成の見学や研修を通して学ぶ機会があり、アレンジしながら取り入れてきた。また、複数の職員がかかわるため、子どもの興味関心をキャッチしながら、環境の構成を考え改善しながら進めている。今後、学年や各クラス、預かり保育と交流して職員間で共有し、環境構成について高め合っていきたい。情報を共有するための時間を確保していくのか検討していく必要がある。
3	<u>教育週数・教育時間</u>	B	教育週数は確保できており、一日の流れについては、おおむね現行でよいと思うが、保護者より教育時間を長くしてほしいと要望が寄せられている。預かり保育時間への移行がスムーズにいかないことがあるため、担任と預かり保育の担任との連携が必要である。
4	<u>行事について</u>	B	子どもたちの姿から行事の内容を検討している。また、各クラスで子どもたちの「やってみたい」を実現する計画があちこちで実践する姿が見られ、クラスから学年、園全体に広がりがみられた。面白い楽しい、もっとうしろならなど自主的・実践的な活動や活発な様子が見られた。次年度より認定こども園に移行するため行事の見直し検討が必要である。職員間で話し合い改善する必要がある。また、保護者の願いや意見を取り入れる機会がなかなかないため、どのように意見を伺っていくか検討が必要である。

5	<u>経営・組織</u> (1) 分掌・体制 (2) 運営 (3) 学年・学級 経営 (4) 保健安全指導	C	(1) については、係や仕事の分担・割り当てされているが、担当者のみ の負担となりチームとしての意識が持ちづらいため、共有する機会が 必要である。預かり保育やフリー、未就園児教室の仕事内容がわから ないところがある。手伝いたいが、どこも手一杯であり共有ができて いない。職員の必要人員は保っているため、限られた人数で保育を工 夫して行う視点を共有していく。 (2) 降園後に管理職、担任との全体会議があり日々の保育や子どもの報 告は共有出来ているが、預かり保育担当者に伝達や共有がしづらい。 学年会議はあるが、他学年や預かり保育との連携が難しい。以前より 学年やクラスを超えて語り合う姿が見られるようになってきたが、今 後は、組織として今まで以上に風通しよく語れる雰囲気を作り、誰も が組織の一員として運営にかかわっていく体制づくり、意識の向上が 必要である。 (3) 学年毎に保育・教育目標や幼児の実態に基づいて設定している。自 由な遊びや他クラスが計画した遊び（相撲大会）などで他学年・クラ スとの交流を行った。 (4) 避難訓練については、計画に基づいて適切に実施しているが、不審 者の訓練は出来ていないため、今後、園内で合図を決めて、避難後の 対応について職員と共有し、子どもたちと訓練を行っていく。 また、健康・安全な生活習慣については、専門的な学びが不足してお り家庭への啓発に至っていない。感染症についてタイミングを計り情 報提供を伝える必要がある。安全指導については、園外保育に出る 機会が少ないため、交通安全の意識が低く、園外保育の計画を含め職 員、子どもたちが実践を通して意識を高めていく。子どもの安全確保 のため家庭や地域社会と連携を図ることを検討したい。 認定こども園移行にあたり、健康便りを発行していきたい。
6	<u>研究・研修</u>	C	職位や職務内容に応じて、各職員が該当するキャリアアップ研修や横浜 市、幼稚園協会、保土ヶ谷区が開催する研修に参加し、必要な知識及び 技能を身につけ保育の質の向上に努めた。研修受講者が、研修の内容を 報告する機会がないため、園内研修での報告や資料や報告書を通して全 体の共有としたい。職員同士が積極的に語り合える風土は今後も必要で ある。研究については、今年度遊び研究会に参加したが、全体として研 究レベルに至っていない現状である。自ら研究主題を考えるための機会 を作っていく、職員が自己研鑽する意識をもつことも必要である。
7	<u>情報について</u>	B	個人情報、公文書收受、発送、処理については、十分配慮し取り扱いに 気を付けた対応を行っている。引き続き配慮していく
8	<u>指導について</u>	B	園舎・園庭の施設・設備の安全点検は、危険な個所や修理が必要なところ に気づいたら修繕をしているが、職員の一人ひとりの意識が必要である。 遊具の老朽化も踏まえて、毎日担当職員が点検をしているが、全職

			<p>員で園舎内、園庭、遊具、園外の見回りを行うことを検討していく。老朽化した遊具の撤去を行なう予定である。</p> <p>遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管については、配置のみならず素材や材質、使いやすさが自由に变化できる環境を整えていく。町内の掲示板を利用させていただいているが、情報の入れ替えに気を配っていく。</p>
9	<u>出納経理</u>	A	適切な処理を行っている。
10	<u>開かれた幼稚園つくり</u>	C	<p>(1) 学校間交流・連携については、今年度、常盤台小学校の2年生・5年生との交流を行った。しかし、日常的なやり取りは少なく、年間交流計画は立てていない。交流では園児・児童生徒が触れ合う中で、小学校に関心をもち、児童が受け入れてくれる安心感、充実感を味わうことができた。教員間は、互いの教育に対しての理解を深めあい、援助について共通理解を図る合同研修を進めていくことを今後の課題としたい。</p> <p>(2) 家庭・地域社会との連携については、地域社会との交流が少ないが、ケアプラザにおいて高齢者との関わりを行った。また、地域でお世話になっているごみ収集車の体験を行い身近に感じる機会は今後も継続したい。おもちゃは、保護者の会を中心に地域の自治会の協力をいただき開催できた。また、未就園の親子には、園庭開放を行っている。附属幼稚園や保育園の子どもたちはお芋ほりや園庭で遊ぶ機会がある。</p> <p>(3) 子育て支援は、未就園児の保護者向けに学習の機会を設けている。園庭開放は、地域の方に開放しているが担当する職員が限定されているため、職員全体で共有が不足している。今後の課題としたい。また、保土ケ谷区や児童相談所などの専門機関と連携し意見交換をしながら保護者と共有を図っている。</p> <p>(4) ホームページやアプリを活用して、クラス便りや日々の保育や子どもたちの様子を発信している。</p>
11	<u>一. 保育の在り方、幼児への対応①</u> (1) 健康と安全への配慮 (2) 幼児のよみとりと理解 (3) 指導とかかわり	B	一. 保育の在り方、幼児への対応① (1) 健康と安全への配慮については、職員が配慮している。 (2) 子どもの本心を探りさまざまな面から思いを読み取るようにしている。また、他の職員や周りの子どもの話を聞き状況を把握した上で一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている。 (3) 子どもと同じ目線にたつてものを見つめあい、子どもの気持ちに共感しながら遊んでいるが、遊びを深めていけるような環境やかかわりについて他の職員と情報交換をしながら進められ機会を設けていきたい。 二. 保育の在り方、幼児への対応② (1) 心のよりどころとして、一人一人を理解しながら関わっている。引

	<p><u>二. 保育の在り方、 幼児への対応②</u></p> <p>(1) 心のよりどころとして (2) 遊びの援助者として (3) その他</p>	<p>き続き大切に関わっていききたい</p> <p>(2) 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている。できるだけ子どもに任せることや子どもと担任が共に同じ目線であることを意識し互いに関わることを心がけた子ども理解を深めることを必要だと考える。他の職員と共有する語りの時間を設けていき、自分の気づきにつなげていききたい。</p> <p>(3) 職員は、クラスに関係なく子ども達と関わりや遊びを大切にしている。クラスの環境構成や子どものことについて学年間では、意見を交換できるが、他学年やフリーの先生と語り合う時間を取る事ができない現状である。</p>
12	<p><u>保育者としての資質 や能力・良識・適性</u></p> <p>一. 専門家としての能力・良識・義務</p> <p>(1) 専門家としての能力 (2) 良識とマナー (3) 義務</p> <p>二. 組織の一員としての在り方</p> <p>(1) 組織の一員としての在り方 (2) 保育の楽しみ・喜び</p>	<p>一. 専門家としての能力・良識・義務</p> <p>(1) 幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けることについては、学びが必要である。自分なりに考えてはいるが、日々手いっぱいになりがちであるため、何ができるか職員間で共有していききたい。保護者に対しては親しみを持って関わることはできているが、専門家としての伝え方については常に学ぶ姿勢を持ち知識を身につけるよう研鑽することが必要である。</p> <p>(2) 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないよう職員は対応している。職員間の挨拶は疲れが出てしまうと気遣いができない時があるため、同僚性としての意識を持つ必要がある。</p> <p>(3) 自らの健康にも配慮しているが、体調を崩して締め切りに間に合わない事があるため、ストレスをためないよう日頃から意識を持つ方法を探っていく。恵まれた環境の中で働かせていただいている。限られた教材、教具の管理、点検に気を配り、職員間で共通理解を図っていききたい。</p> <p>二. 組織の一員としての在り方</p> <p>(1) 教職員全員でひとつのチームであることを意識しているが、クラス（担任個別）や学年の事が中心となり、他学年の職員や新人の職員と関係が取りずらく、互いに意見を言い合える関係性を築いていく事が重要である。園内研修は、数年前に比べてリラックスした中で意見を出し合う姿が見られる。</p> <p>(2) 子どもと関わること、保育の楽しみ・喜びを感じ合える職員が多い幼稚園である。豊かな自然に恵まれ自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じていく環境を大切にしていきたい。地域のことについては関心を持つ必要がある。</p>

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>保育者一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。</p> <p>職員間で共通していた具体的な検証結果は、園内の環境面を充実させていくこと、保護者を巻き込んでいくこと、家庭や学校、地域社会と連携を図ることについて検討の必要性を問う意見が多かった。昨年も同様の意見があり検討はしてきたが、小さな変化に留まり、全職員の意識としてはまだまだ検討の余地があると感じている。また、職員間で語り合う時間、他学年と情報を共有するための時間、園内研修を行うための時間、教材・保育準備の時間についても、忙しい中、いかに時間を捻出していくのか課題となっている。これについては、年間の行事や時間の使い方や記録の仕方について見直しを行っているが、有効的な時間を確保する事まで至っていない。保育・教育の視点では、保育のあり方、幼児への対応については、子ども一人ひとりと向き合い、丁寧に受け止めて保育する職員が多い。今後も質の高い保育の維持・向上を目指し実践につなげたい。</p> <p>総合評価が「B」であることは、一人ひとりの職員が保育・仕事内容を振り返り、問題意識を持っているからだと推察するが、振り返った後、課題を見出し改善を図るサイクルには至っていない。日々の保育を通して「自らの保育実践を振り返り」や「専門性の向上や保育の改善」につながることで、また、幼稚園の運営にかかわっていくための相互理解・共通認識の深まりを目指すことについて職員間で共有していくことを次年度も引き続き行っていく。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
認定こども園移行に向けて職員間の情報共有のあり方	次年度は、認定こども園に移行することを踏まえ、幼児、1.2歳児、預かり保育の職員が分断されることなく連携し情報を共有できるような環境を整えていく。
休憩時間を確保 語り合う時間	次年度より休憩時間を確保し、気持ちにゆとりが持てる環境を整えていく。休憩する、自由に語るなどさまざまな職員と接する機会としたい。
時間の確保	1か月に1回程度、職員がテーマを決めて、職員間で語り合う時間、他学年と情報を共有するための時間、園内研修で何を学びたいか、教材・保育準備に何が必要かなど話し合う機会を設ける。
家庭や学校、地域社会と連携	日常の保育や行事に、保護や近隣の方や連携している小規模保育園、近隣の子育て家庭に情報発信して交流する機会を設ける。

	保健安全指導	(1) 学年・学級経営に生かされるような具体的保健 対策を講じているか (2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか (3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか (4) 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係 機関等と連携を図っているか			
研究・研修	園内研究指導	(1) 研究主題は、保育・教育目標の具現化につながるものであるか。 (2) 園内研修の計画・運営は適切。 (3) 研究の成果が日常の保育に生かし、幼児の育ちに反映させているか (4) 研究の実践による幼児理解が深まりを見せているか	6 C		
		園外研究研修		(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか (2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	
				情報について	(1) 幼児や保護者に関する個人情報 を適正に取り扱 っているか (2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか (3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか
		指導について			(1) 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っているか (2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか (3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか (4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか
	出納経理		(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか	9 A	
	一開かれた幼稚園づくり		学校間交流連携	(1) 他校種との年間交流計画は、保育・教育目標や 課題に添ったものになっているか (2) 他校種の幼児児童生徒と触れ合う中で、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っているか (3) 指導者同士が、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対しての理解を深め、援助について共通理解を図っているか (4) 参観や指導に参加するなどして、他校種の教育を理解しているか (5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか	10 C
会との連携 家庭地域社				(1) 参観時間を工夫し、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか (2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か (3) 幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか (4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	
		子育て支援の推進		(1) 他の園に、園庭、保育室等を開放しているか (2) 地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか (3) 地域の実態を捉え、計画的な預かり保育を行っているか (4) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか (5) 教職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。 (6) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	

二 II	情報の発信	(1)園だより、学級通信、ホームページ等で園の情報を発信しているか。	
		(2)行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や他校種に対して周知しているか。	
	外部評価	(1)学校評議員の意見を園運営に反映しているか。	
		(2)地域や保護者の意見を園運営に反映しているか。	

教育課程の編成と実施に関する評価

保育の在り方、幼児への対応

一 保育の在り方、幼児への対応 ①	1. 健康と安全への配慮	11	B
	(1) 朝の登園時には特に視診を大切に子ども体調が悪くないかを確認している		
	(2) けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成やことばがけを行なっている		
	2. 幼児のよみとりと理解		
	(1) 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている		
	(2) 幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている		
	(3) 一人の 幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる		
	(4) 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる		
	(5) 幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている		
	(6) 幼児の姿を多面的にとらえることができる		
	3. 指導とかかわり [共同作業員として]		
	(1) 幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている		
	(2) 幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる		
	(3) 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている		
	(4) 幼児からのアイディアをくみとって遊びを深めている		
	[あこがれを形成するモデルとして]		
	(1) 教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている		
	(2) 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている		
	二 保育の在		
(1) 幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている			
(2) 幼児一人ひとりのよさを認めるようにしている			
[遊びの援助者として]			
(1) 幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイディアを提供している			
(2) 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている			
(3) 幼児をほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉かけをしている			

の 一 員 と し て の 在 り 方	(4) 教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない	
	(5) 上司や先輩に対しては敬語を用いて話している	
	(6) 教職員や園の批判を軽はずみにしていない	
	3. 保育の楽しみ・喜び	
	(1) 幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きである	
	(2) 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	
	(3) 幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる	
	(4) 幼児と一緒に生活を創りだすことが楽しい	
	4. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	
	(1) 幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	
	(2) 自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じている	
	(3) 地域のことに興味がある	